

名画で鍛える診療のエッセンス

科目責任者：森 永 康 平（総合診療科 助教）

対象：第6学年・1, 3学期

I. 前文

医師が診療を行っていくにあたって、目の前にある対象（患者自身、画像検査結果）を観察し、また対話することで情報を収集することは、診療の土台となる重要な行程です。また集めた情報を頭の中で整理、思考し、問題解決のための仮説を立てたり、専門家にコンサルトする場合は言語的な能力や対話を用いたコミュニケーション力というものが不可欠です。一方でそれらを学校の授業で学ぶ機会というものは限られてきました。

当講座では表現するために先人たちが試行錯誤してきた結晶である芸術作品もふんだんに題材に用います。作品を前に対話しながら言語技術、相手の思いやりと深い理解を根幹としたコミュニケーション力を楽しく、段階的に身に付けていきましょう。

（これまで芸術とは縁もゆかりもなかった、という人ほど大歓迎です！）

II. 受入可能人数

全ての学年から合わせて10名以内 / 1学期

III. 担当教員

森 永 康 平（総合診療科 助教）

IV. 学習内容

- ・コマ数：6～8コマ（要望等に合わせて変更の可能性あり）
- ・担当教官によるスライドを使用した講義+グループワーク（対話型鑑賞やディスカッション）
- ・対話型鑑賞では芸術作品を中心とした題材で講師-参加者が対等な立場で、対話を行いながら観察力や思考力を高め円滑なコミュニケーションを送る方法を探っていきます。

V. 学修の到達目標

- 1 私達の周囲にあふれる曖昧な情報に敏感に察知できるようになる
- 2 相手の寄り添って言葉を選び、自分が納得できるような質問を組み立て実施できるようになる。
- 3 物語がどのような構造をなしているかを学び、既存の物語を要約することが出来る。
- 4 対話型鑑賞を通じ、同一の鑑賞物であっても様々な視点があるのを知り、その理解の上でコミュニケーションを再構築していくことが出来る。
- 5 ネガティブケイバビリティの概念を学び、複雑で答えの無い問題に取り組む姿勢のヒントを得る。

VI. 成績評価の方法・基準

下記の評価点の合計で総合評価する。

1. 担当教諭による評価
2. 各講義で出された課題
3. 講座終了後のレポート

VII. 使用する教材・資料など

原則不要。各講義で配布するプリント

VIII. 質問への対応方法

随時受け付ける。PHS7299 Email : k.morinaga0815@gmail.com

原則は事前に総合診療科の秘書を通じアポイントをとること。

IX. 求められる事前学習, 事後学習* ()内は所要時間の目安

事前学習：特になし(指定ある場合を除く)

事後学習：指定された課題 また前講義を受け, 日常生活を振り返り気づいたことをまとめ次講義冒頭で発表するので, 準備をしておくこと。(3分程度)。

X. コアカリ記号・番号

医学教育モデル・コア・カリキュラム平成28年度改訂版 (p. 18)

A-4-1) コミュニケーション

学修目標：

- ① コミュニケーションの方法と技能(言語的と非言語的)を説明し, コミュニケーションが態度あるいは行動に及ぼす影響を概説できる。
- ② コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
- ③ 患者・家族の話を傾聴し, 共感することができる。

XI. 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法

課題, レポートは添削して本人へ返却する。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術(ICT)などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	

六学年

社 会 的 視 野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人 間 性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎